

次世代アジアの人材育成

—多様性と混沌のなかで生き抜く力を培うために—



講師:小林 りん 氏(インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢設立準備財団 代表理事)

次世代のアジアを担う若者をいかに育てていくか、グローバル・リーダー育成が大きな課題となっている。来秋、日本初となる文部科学省認可の全寮制インターナショナルスクールを開校する小林りん氏がその教育理念と使命を語った。

アジア圏を中心に 国内外の高校生を募集

日本の労働人口は、今後30年間に2,000万~3,000万人減少するといわれている。そのため労働力率の改善という点では、今後移民の受け入れ、外国人労働者の採用が不可避となるだろう。このような状況の中、多様な価値観と文化のはざままで活躍できるグローバル人材の育成が求められている。

私たちはグローバル社会を生き抜くリーダー育成を目指す学校プロジェクト「インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢 (ISAK)」を立ち上げた。2010年から国内外の中学生を対象に軽井沢でサマースクールを開催してきたが、2014年9月に文部科学省認可の全寮制高校として開校する予定だ。生徒の内訳は日本人25%、アジア圏内50%、残り25%がアジア圏外と考えている。

ISAKのミッションは、アジア太平洋地域をはじめグローバルな社会において新しいフロンティアを創り出し、変革を起こすことができるリーダーを育てることだ。指導言語は英語だが、日本語や日本文化の教育も重視する。各学年50人程度で1クラス20人未満を目指す。卒業と同時に日本の高校卒業資格と国際バカロレア資格も取得できるので、世界75カ国の大学への受験または入学資格が得られる。

世界中から教員と生徒を集め質の高い教育を提供するため、コスト高は避けられない。ただし、奨学金制度を充実させることで、生徒の経済的・社会的多様性を実現する予定だ。設立資金は当初、個人の寄附と借入れだったが、多くの法人からも支援をいただいた他、ふるさと納税も活用する。2017年度から単年度黒字を見込んでいる。

リーダー育成には 三つの要素が必要

ISAKでは三つの教育的価値を掲げる。一つは「多様性への寛容力」。多様性は教室で大人が教えるものではない。これが全寮制たるゆえんだ。国籍、社会、経済、文化、宗教観、歴史観などを生徒が互いに学び合って多様性を理解することを目指している。

二つ目は「問題設定能力」。すべての授業において、自ら問題を設定し、多様な価値観に配慮しながら解を導く力を養う。デザイン思考プログラムはスタンフォード大学デザインスクールで大学院生が学んでいるメソッドである。

三つ目は「リスクをとる力」。寮運営を生徒が行うことやアウトドア・プログラムによって、失敗やリスクを恐れずチャレンジする訓練を行う。

こうした要素をいかに日々の教育プログラムに落とし込んでいくかが非常に重要だ。また、生徒の精神面と安全

面については、全寮制高校での経験を持つ教員家族がハウスペアレンツとして隣地に住み生徒を支える。また、カウンセラーを雇用する準備もしている。

グローバル・リーダー人材の 育成は、私たちの社会的使命

学校としての持続性も重要な課題である。ユナイテッド・ワールド・カレッジ (UWC) は私が留学し、ISAK 設立のきっかけとなる原体験をした高校だ。UWCは12カ国12校の学校群で、140カ国で国内委員会が生徒を選抜し、奨学金を付与して各校に派遣する仕組みになっている。ISAKは現在UWCへの加盟について交渉の最終段階にあり、これを実現することで、さらなる多様性と持続性を追求していきたいと考えている。

私たちは教育と人材育成に社会的使命を負っているので、国内教育機関との連携も重視する。今年はサマースクールでワークショップを開催し、他校の教師らと授業見学の他、日本での国際バカロレア・カリキュラムの導入方法、各教科でのインタラクティブな授業の方法論などを議論する機会を得た。

ゼロから始めてここまで事業を推進できたのは、メンバーや支援者の「共感力」「感謝力」そして「楽観力」によるところが大きい。今後も高いハードルや課題が待ち受けていると思うが、チーム全員で乗り切っていきたい。